



国内最高水準の小型焼却炉で 養鶏業界からジビエ業界へと進出

【プロフィール】

宮崎県出身。通信会社などを経て独立し、農業の世界へ。2001年に株式会社エー・ワンを創業、2009年より養鶏処理専用の小型焼却炉を開発・販売する。社員4名の少数精鋭で、全国へと販路を広げている。

株式会社エー・ワン 代表取締役社長 石山 弘海氏

技術力と創造性で 大手資本に対抗する

例年、冬になると報道される鳥インフルエンザ問題。食の安全安心に対する関心の高まりを受け、養鶏業界においても、食肉や卵に対する高い衛生管理が求められています。そうした中、日々発生する死鳥への対応策として、養鶏処理専用の小型焼却炉を開発・販売しているのが、福岡市博多区奈良屋町の株式会社エー・ワンです。エー・ワンが開発した小型焼却炉『Cleanfire（クリーンファイア）』は国内最高水準の環境性能と焼却能力で、全国から注目を集めています。

代表取締役社長の石山弘海さんは、焼却炉開発のきっかけをこう振り返

ります。

「農業に携わる中で、養鶏業界の方から話を聞き、死鳥の処理問題が非常に大きな課題になっていることを知りました。そこで焼却炉の開発・販売に着手。かつては埋却などで処理されており、長年にわたって衛生面が問題視されていたそうです。宮崎県で鳥インフルエンザが大規模化するなどの社会背景もあり、結果的に全国展開への足がかりとなりました」。

通常、食用のニワトリは約50日間で生育されますが、そのうちの3~5%は成長過程で死んでしまうとわれ、日々発生する死鳥をいかに安全かつ衛生的に処理するかが課題でした。そこでエー・ワンの『Cleanfire』は、行政への届出が不要な処理量50kg/h未

満の小型焼却炉ながらも、環境省廃棄物処理規則の最高水準を適用。他社製品と比べダイオキシンをはじめとした有害大気汚染物質を大幅にカットするなど、高い環境性能を誇ります。また独自技術として、渦巻型に空気を流すことで燃焼効率を高め、熱しく減量*も10%未満に減らすことに成功。さらに燃料の面では灯油と薪を併用できる仕様で、動物が本来持っている脂肪も活用し燃料効率を向上。大きなコストカットにつながっているそうです。

「実際にニーズがあるかなど非常に悩みましたが、中小企業は技術力や創造性で対抗しないと大手資本には敵いません。小資本の中で開発を行うということは、ある種の賭けでもありました。しかし衛生面での改善が期待でき



1 『Cleanfire』の焼却能力は50kg/h未満、焼却炉火床面積0.5㎡未満のコンパクト設計で、一部自治体を除き届出・設置許可が不要

3 エー・ワンでは鶏糞を活用した肥料など新しい試みを積極的に取り入れ、キャベツなど野菜の生産にもチャレンジしている

2 焼却灰の減量や飛散灰の除去など、二重三重の環境対策は『Cleanfire』の強みのひとつ。敷地内でも容易に焼却処理ができる

4 エー・ワンは一般社団法人日本ジビエ振興協会の会員として、農業における鳥獣被害防止やジビエの普及に協力している

る製品を新たな市場にも展開すれば、より社会に貢献できるものになると信じています」と石山さん。約1年半をかけて開発した『Cleanfire』は口コミで広がり、現在では全国26都道府県下で活用されています。

※焼却物が完全燃焼したかどうかの指標。廃棄物処理法では10%以下になるよう定められている。

閑散期を生かして ジビエ業界に進出

「養鶏農家では鳥インフルエンザの流行期である11月から3月は、養鶏場内への部外者立ち入りを原則禁止しています。そうした理由からこの時期は閑散期になってしまいます。そこでジビエ業界へと『Cleanfire』を展開しました」。

2016年、農林水産省では補助金に依存していた有害鳥獣対策を方向転換し、イノシシやシカなどを食肉とするジビエ市場の開拓を促進。従来の捕獲助成金を減額する一方で、食肉利用として捕獲した場合の助成金額は維持する施策を展開し、ジビエ業界の盛り上がりを後押ししています。さらにジ

ビエ肉の残渣処理のための焼却炉導入に対して補助を行うなど、エー・ワンにも追い風が吹いています。

「イノシシなどの食肉以外の部位については、山中に廃棄するなど、衛生管理がなされていないという課題があります。そこで『Cleanfire』が活用できるのではないかと考えたのです」。

エー・ワンでは一般社団法人日本ジビエ振興協会と連携するほか、2019年11月に東京ビッグサイトで開催される『鳥獣対策・ジビエ利活用展』に出展するなど、新たな販路拡大を進めています。

「ジビエ業界にも焼却炉を展開することで、売上の平準化はもちろん、有害鳥獣の駆除に寄与していきたい」と石山さんは意気込んでいます。

様々な企業と協力し 循環型農業の実現へ

養鶏業界やジビエ業界で存在感を示すエー・ワンの小型焼却炉ですが、まずは国内市場占有率ナンバーワンを目指しています。さらに海外展開も睨む石山さんは「日本はもちろん、アジ

ア各国では鳥インフルエンザが養鶏業界の課題であり、一部の国では衛生管理が行き届かず常態化しているところもあると聞きます。衛生管理にも寄与できるエー・ワンの焼却炉が役に立つはず」と話します。

そんなエー・ワンのモットーは『お客様のお困りごとにどう対応できるかを形にすること』。小型焼却炉の開発の出発点も、養鶏農家のお困りごと。また養鶏農家が頭を抱える鶏糞処理についても、肥料としての活用を模索するなど、チャレンジを続けています。

「私たちが最終的に目指すのは循環型農業。様々な企業と協力しながら課題に取り組んでいきたい」。



株式会社エー・ワン

〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町5-18-3F
TEL 092-233-7525
<http://www.clean-fire.com/>